

みんなの力で
あずまい
まちづくり

市民参加型まちづくり1%システム

市では、まちづくりの基本的なルールを定めた「協働によるまちづくり基本条例」の考え方のもとに、市民の皆さんと一緒に、皆さんが主役となって活動するまちづくりを進めています。その取り組みの一つとして、町会・NPO・ボランティア団体・学生などが、自分たちの地域を良くするために自主的に行うまちづくり活動を支援する「市民参加型まちづくり1%システム」という補助金制度があります。

本年度は、地域交流事業やまちなぎわいを創出する事業、健康増進事業など、45事業に活用されています。

現在、来年度の実施事業を募集中です。皆さんのアイデアや経験を生かした提案をお待ちしています。制度内容や申請の出張相談も受け付けていますので、気軽にお問い合わせください。※応募された事業は、審査会で総合的に審査し、事業採択の可否を決定します。

▼募集期限（1次募集） 1月21日（金）

※1月14日（金）までに、必ず事前の相談を。



▼制度の概要

制度内容	一般部門	スタート部門
団体の人数	5人以上	3人以上
申請回数の上限	なし	1団体1回まで
補助金の上限額	50万円	5万円
審査方法	プレゼンテーション、審査会	書類審査のみ

※『スタート部門』とは…まちづくり初心者向けの部門で、まだ1%システムを活用したことがない人や、書類作成やプレゼンテーションに慣れていない人におすすめです。

▼事業実施期間 4月1日～令和5年3月31日
※この制度に関する予算は、令和4年第1回市議会定例会で審議され、その可決をもって制度を実施します。

▼対象事業 原則、市内で実施される公益性のある事業で、住民や構成員が自ら行動して実施するもの

▼補助金額 対象経費の90%以内の額（上限があります）

▼申請方法 所定の書類を市民協働課へ直接持参してください。

※制度の詳細や申請書類は、同課で配布するほか、市ホームページ（<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ichi-per/>）に掲載しています。

■問い合わせ・提出先 市民協働課（市役所2階、☎40-7108、Eメール shiminkyoudou@city.hirosaki.lg.jp）



「全国版空き家・空き地バンク」で物件情報を公開開始

市では、空き家や空き地を売りたい・貸したい所有者と購入・賃貸の希望者とのマッチングを支援する制度として、圏域8市町村の連携による「弘前圏域空き家・空き地バンク」を運営しています。

現在、物件情報を閲覧できるのは「弘前圏域空き家・空き地バンク」ホームページのみですが、1月11日（火）から全国版空き家・空き地バンクを運営する2社のホームページで閲覧可能になります。

これまで以上に閲覧数の増加が期待されるほか、近年増加傾向にあるテレワークや二地域居住などの移住希望者による閲覧も期待できますので、空き家・空き地の売却・賃貸を検討している人は、ぜひ利用してください。

■問い合わせ先 弘前圏域空き家・空き地バンク協議会事務局（建築指導課内、☎40-0522、Eメール kenchikushidou@city.hirosaki.lg.jp）

全国版空き家・空き地バンク ホームページ

LIFULL HOME'S
空き家バンク

運営会社…LIFULL

<https://www.homes.co.jp/akiyabank/>



アットホーム
空き家バンク

運営会社…アットホーム

<https://www.akiya-athome.jp>



【全国版空き家・空き地バンクとは】

国が実施する事業で、全国の自治体から集約した空き家等の情報にどこからでも簡単にアクセス・検索できるよう、公募で選定された「LIFULL」と「アットホーム」が運営するサービスです。

高岡の森歴史だより

第10回 ひき馬図絵馬



▲ ひき馬図（当館蔵）

年明けのこの季節は私たちに於いて絵馬が身近に感じられる頃ではないでしょうか。初詣で買い求めた人、合格祈願のため奉納する人も多いと思います。

今回紹介する絵馬には、美しく飾られた馬が引かれていく姿が描かれています。この白馬は神にささげられた神馬（しんめ）です。農業を生活基盤とする日本では、雨乞いや天候回復を神に祈る風習が古くからありました。古代の法令にも、雨を願う場合は黒毛馬を、晴れを願う場合には白毛馬を、雨を司る神社へ奉納すると規定されています。生きた馬を奉納するのが難しくなると馬の姿

高岡の森弘前藩歴史館より、展示資料や歴史ネタを毎月紹介します。
■問い合わせ先 高岡の森弘前藩歴史館（☎83-3110）

PR 動画公開中



を模した土馬や木馬が、そして更に簡略化が進み、板に馬の絵を描き奉納するようになった、というのが絵馬に至る大まかな流れです。

高さ145cm・幅185cmを超えるこの大絵馬を高岡神社に奉納したのは、弘前藩8代藩主の津軽信明（のぶはる／のぶあきら）です。信明は天明の飢饉直後に藩主となり、まずは餓死者の供養を行いました。徹底した質素倹約のもと、飢饉への備えとして貯蓄を強化するなど、領内復興に向けて諸制度の改革を推し進めました。

改革が軌道に乗りつつあった1791（寛政3）年、30歳にならずして亡くなりました。若き藩主が死去する前年に奉納したこの白馬の大絵馬には、領民安寧への強い願いが込められていたのではないのでしょうか。

Hirosaki Art Times

ヒロサキ・アート・タイムズ #10

弘前れんが倉庫美術館に関連する情報を連載します。

■問い合わせ先 弘前れんが倉庫美術館（吉野町、☎32-8950、<https://www.hirosaki-moca.jp/>）

冬休み、アート鑑賞に出かけませんか

弘前のりんごから着想された光の彫刻作品とともに、弘前ゆかりのアーティストたちの作品が見られる



展覧会「りんご前線—Hirosaki Encounters（ヒロサキエンカウターズ）」は、会期も残すところあとわずかとなりました。展示室いっぱい広がるアート作品は圧巻の見応えです。

小・中学生、高校生はいつでも無料で観覧できますので、冬休みのお出掛けにアート鑑賞を楽しんでみませんか？

新年は1月2日（日）から開館します。右記の特典も用意していますので、家族揃って美術館へお越しください。

○新春プレゼント

1月2日（日）・3日（月）、各日先着30人に特製ポストカードを贈呈します。

○新春建築ガイドツアー

▼とき 1月2日（日）、午前11時～（40分程度）

▼参加料 無料

▼定員 10人（先着順）

館内を巡りながら建物の歴史や見どころについて当館スタッフが解説します。世界的な建築家・田根剛氏が設計した美術館の冬の表情をお楽しみください。

【展覧会「りんご前線—Hirosaki Encounters」】

▼会期 1月30日（日）までの午前9時～午後5時（最終入館は午後4時30分）

▼休館日 火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月26日～1月1日）

※観覧料など、詳しくはお問い合わせください。

